平成３０年度　佐世保市立金比良小学校
学　校　経　営　計　画

（校訓）やさしく　かしこく　たくましく

学　校　教　育　目　標

心豊かで，確かな学力を身につけた，心身ともにたくましい子ども

学校経営の基本方針

○日本国憲法，教育基本法などの教育法令，長崎県，佐世保市教育方針に則り，児童や地域の実態に即して，児童の健全な育成を期する。
○学校教育目標の具現化に向け，児童が主役となって生き生きと学び活動する学校教育の充実を図る。
○児童の心の居場所となる支持的雰囲気の温かく意欲的な学校づくりに努め，豊かで活力のある人間関係づくりを進める。
○教師一人一人が常に自己研鑽と自己変革に努め，子どもと寄り添い，人間性豊かな感性と指導力を高める教師集団を創造する。

めざす学校の姿

①明るく楽しい学校
②落ち着きと礼儀のある学校
③美しく安全な学校
④保護者や地域と共に励み合い信頼される学校

めざす児童の姿

�わ：和を大切にする子
�か：かしこい子
㋬：しんぼう強くがんばる子
�お：思いやりのある子

めざす教師の姿

①心身共に健康で，使命感を自覚し信頼される教師
②自己研鑽に努め，子どもと共にあり，実践する教師
③組織の一員として，協調性と創造性を発揮し楽しい職場作りに努める教師

和を大切にする子（徳） 思いやりのある子	かしこい子（知）	しんぼう強くがんばる子（体）
＊あいさつ・言葉遣い・善悪の判断等，基本的生活習慣を身につけ，けじめのある生活ができる。 ＊他人の立場を認め，誰とでも仲よく協力できる。 ＊自分を支え，助けてくれる人々へ，感謝の気持ちを表すことができる。 ＊優しい心で動植物に接し自他の生命を大切にすることができる。	＊ 反復により基礎･基本をしっかり身につけ，活用することができる。 ＊人の話をきちんと聞くことができる。 ＊ 書く･話す等の表現力を身につけ，自分の思いをしっかりと伝えることができる。 ＊ 学び方がわかり，自ら進んで学習できる。	＊ 基本的生活習慣･衛生的な習慣を身につけ，健康で安全な生活を送ることができる。 ＊ 体力づくりに励み，全力で頑張ることができる。 ＊ がまん強く最後までやり遂げることができる。

信頼される学校づくり

＊　地域人材や関係団体の活用
＊　教育活動の積極的公開
＊　積極的な情報公開
＊　地域行事への積極的参加
＊　事件，事故への迅速かつ誠意ある対応

今年度の重点目標

1　英語教育の充実（英語が話せるまち佐世保プロジェクト）

○これまでの研究をもとに、金比良スタイルの英語教育研究を推進していく。
○小中一貫型小学校、教育課程特例校の利点を生かし、中学校英語教師の乗り入れ授業や英語支援職員と担任とのＴ.Ｔ指導などを通して、学習内容の充実を図る。
○H32 本格実施の英語教育を見据えた５領域の指導について実践研究を行う。
○授業やイングリッシュタイムの学習で身につけたコミュニケーションの能力を生かす場づくりを行う。（アメリカンスクール、イングリッシュデー）
○大学・行政・民間等との連携による「英語が話せるまち佐世保」の具体的実践を行う。

2　小中一貫型小学校の定着

○制度２年目にあたり、課題修正を行いながら光海中学校との一貫教育を進める。
○地域とともにある学校づくりの中で本制度のよさを生み出す。
○６年生が中学校で学ぶメリットを最大限生かした小中一貫校のあり方を追究する。
※小中９年間でそろえ、つなぐところ　小学校の独自性を出すところ
※校内研修や学校行事での連携・交流、児童会（生徒会）活動等の合同開催など
（H30=小中一貫合同運動会の開催）
○本制度の広報周知を図る（ＨＰ、各種総会、懇談会、報道）

3　基礎学力の向上

○読む・聞く・書く・話す活動にけじめをつけ、思考力･判断力･表現力等を育成する。
※学びのコミュニケーションスキル(小中一貫「学びのスタンダード」)の徹底指導
○各種学力調査で明らかになった課題を重点的に補強する。
※少人数指導の充実を図る。特に、中･低位の児童の底上げを図る。
○「地域未来塾」事業（社会教育課）とリンクした学力向上を図る。

4　生活規律の徹底

○学校生活（学習・休み時間・給食・そうじ）にけじめをつけ、規律ある態度を育てる。
○基本的生活習慣の定着による生活のルーティンをつくらせる。
※「早寝・早起き・朝ご飯」、ゲーム機・タブレット利用等に対する指導
○養育環境や家庭環境に配慮・指導・支援を要する家庭は、市・県の福祉関係機関との連携を緊密に取り、三位一体となった子育て環境の改善を図る。

5　信頼ある教師集団による信頼ある教育

○厳しさと優しさのバランスのとれた指導　※体罰、暴言等の不祥事を出さない。
○事案発生後の迅速な対応　※保護者・地域への誠意ある対応
○法令遵守（コンプライアンス）※学校教育活動を通した社会貢献

平成３０年度　学校経営の努力点

１　英語教育の充実【英語が話せるまちＳＡＳＥＢＯ】

○教育課程特例校の強みを生かした英語教育の実践

※５領域（聞く・読む・やりとり・発表・書く）の指導方法の実践研究

※小学校１年生から中学校３年生までの９か年の英語カリキュラムの実践と付加修正

※これまで培った実践をもとに、金比良スタイルの英語教育を定着させていく。

○小中一貫型小学校・中学校の制度を生かした英語教育の実践

※中学校英語教師の乗り入れ授業や英語が堪能な職員と担任とのＴ.Ｔ指導の充実

※小中一貫教育合同会議を通して、学習内容の改善・充実を図る。

○授業やイングリッシュタイムの学習で身につけたコミュニケーションの能力を生かす場づくりを行う。（アメリカンスクール、イングリッシュデー、イングリッシュキャンプ）

○大学・行政・民間等との連携による「英語が話せるまち佐世保」の具体的実践を行う。

（校内研修招聘、校外広報活動、民間事業者の活用など）

２　小中一貫型小学校教育の推進　【　つなぐ・そろえる　】

○小中一貫型小学校・中学校２年目

（着実な基礎づくり）

※計画の実践：小中一貫推進コーディネーターを中心に実施計画を実践する

※情報と課題の共有：小中一貫合同研修会・連絡会の開催。研究授業と別に中学校の授業を参観する。

※周知・啓発：小中一貫推進協議会だよりを発行し，保護者・地域住民へ周知・啓発を図る。

※小学校乗入れ授業：中学校教師の乗り入れ授業（小６国語・書写・英語・算数・図工）

※学校行事や児童会・生徒会活動等での児童・生徒の交流活動の実施

（Ｈ３０小中一貫合同運動会合同開催）

３　地域とともにある学校づくりの推進　【　信頼される学校づくりのために　】

○　積極的な情報発信(学校だより、学年だより，ホームページ，各種会合等)

○　地域行事への積極的参加・協力（Ｈ２９地区自治協議会発足）

○　地域未来塾との連携（市社会教育課）

○　学校支援会議・学校評議員会をとおした学校課題の解決

○　地域人材・関係団体との連携・融合(公民館講座、稲作体験，読み語り，福祉関係　等　)

４　基礎学力の向上【かしこい子】　＊教師は授業で勝負する。

○　自分の夢や希望を持たせ，高い目標をたて，くじけないで努力する場の設定。

※自己肯定感の育成→中学校のキャリア教育へつなぐ

※学習規律の確立（はじめの３か月は厳しく徹底）→　聞く，話す，時間を守る等。

金比良・光海「学びのスタンダード」を定着させ，中学校へつなぐ。

※専科と学級担任との連携を緊密にし，指導の差をなくす。

※１単位４５分間の授業時間の確保。（小６in 中学校＝５０分授業を導入する）

※（めあて）と（まとめ・ふりかえり）をリンクさせた授業を１コマの中で成立させる。

○　個に応じた指導（少人数指導・習熟度別指導・個別指導等）の一層の推進

※課題にこだわった具体的な手立て，中・低位児童への個に応じた具体的な手立て(補充学習・家庭学習等)と高位児童への発展課題を講じる。

○　特別支援教育の充実

※情緒障害特別支援学級新設：個別の指導計画・支援計画に基づく学校と保護者、関係機関が一体となった支援を行う。

○　新学習指導要領移行期の中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

◇見通しをもって粘り強く取り組む学び（主体的学び）

◇その教科の思考(用語･視点)で，書く・説明する・まとめる学び（深い学び）

◇複数の資料（グラフや表など）を根拠に推論，議論する学び（深い学び）

◇言葉だけでなく，図や数直線，線分図等をかいて説明する学び（深い学び）

◇自分自身・ペア・グループ・学級全体・教師・保護者・地域関係者と説明し合い，意見交換し合い、考えを広げる学び（対話的学び）

◇自らの学習を振り返り次につなげる（主体的学び）

○　漢字の読み書き，計算力の向上・定着をめざし，繰り返し問題に取り組ませる。

○　家庭と連携して，家庭学習の習慣を図る。→「家庭学習のすすめ」の活用

※家庭学習時間のめやす　１５分×学年＋読書（１０分）

○　学校司書と連携した読書の充実　→　全校読書冊数　目標 10,000 冊（平均８０冊/年/人）

○　ICT（実物投影機・大型プロジェクター等）の良さを活用した授業。

○　学習指導計画書（週案）の確実な記入と，定期的な提出

（記録は証拠になり，自己を救う。）

5　豊かな心を育てる【 和を大切にする子・思いやりのある子】

○「**ありがとう**」「あいさつ・返事・くつならべ」･･･本校の一徳運動

※21 世紀に残したい言葉ランキング１位「ありがとう」：幸せの一言を口に出そう

※「いつでも」「どこでも」「誰とでも」あいさつの徹底→毎朝、校門あいさつの実施
※呼ばれたら元気に「はい」と返事する→授業、集会の場での徹底
※靴並べ→毎日点検。雨の日は傘も畳んで並べる習慣化

○　図書ボランティアや見守り隊の方々，地域の方々等，子どもたちを見守ってくださる方々への感謝の気持ちの表すことの指導。

○　学校や地域をより良くするため，進んであいさつやゴミ拾い、桜の花びら・落ち葉掃き等のミニボランティア活動を奨励する。

○　掃除指導の徹底。特に無言掃除に力を入れる。

○　道徳教育の充実(週１時間の「道徳」の確保，心に響く授業，豊かな体験活動)
「新しい教科　道徳」本格実施における計画的実践

○　自分や友達の命，動物や草花を大切にする心を育てる具体的な場の設定。

○　相手を思いやる優しい言葉遣いの指導　→「ちくちく言葉」から「ほかほか言葉」へ

○　いじめをしない，させない，見逃さない児童の育成。(なかよし宣言の意識化と活用)

○　学校のきまり，社会のルール（児童センターや公園等公的機関での過ごし方）を明確に示し，継続的に指導する。

○　たてわり活動の充実(２学年遊び，たてわり掃除，特別活動等)

○　当番，係，掃除の仕事では，一人一人に係を持たせ，学級・学年・学校をよくする意識を持たせる。

6　健康の維持・体力の向上【　しんぼう強くがんばる子　】

○　積極的に運動させる機会の設定。体育授業では，一人一人の運動量を十分に確保する場の工夫をする。

○　早寝・早起き・朝ご飯等，生活リズムの確立　→　遅刻ゼロ，長欠児童ゼロ
※全校欠席ゼロの日（目標：４０日/２００日）

○　テレビ視聴，ゲーム，携帯電話，パソコン等のメディア利用と自分の生活への影響，節度ある活用のあり方等を振り返らせる場の設定と保護者への啓発活動。

※特に，テレビ視聴時間、ネット環境下でのゲーム機利用、ＳＮＳ利用について警鐘

○　「自分の身体は自分で守る」意識を持たせ，実践をさせる。

○　食物アレルギー児童への誤食をゼロにする。

◇改訂マニュアルの共通理解の徹底。アレルギー対応児童の正確な把握と共有。

◇誤食防止の二重三重のチェック（職員室での毎朝掲示，給食時の７学年毎回巡視）

◇誤食発生時の対応マニュアル共有と訓練の実施（エピペン研修：年度当初小中合同実施）

○　う歯治療率の向上，歯肉炎の児童を減らす指導。（フッ化物洗口の定着化）

○　給食指導をとおして，正しい食習慣や偏食指導等具体的な指導を行う。また，保護者への積極的な啓発を行う。

７　地域とともにある学校づくりの推進　【　信頼される学校づくりのために　】

○　積極的な情報発信(学校だより、学年だより，ホームページ，各種会合等)

○　地域行事への積極的参加・協力（Ｈ２９地区自治協議会発足）

○　地域未来塾との連携（市社会教育課）

○　学校支援会議・学校評議員会をとおした学校課題の解決

○　地域人材・関係団体との連携・融合(公民館講座、稲作体験，読み語り，福祉関係　等　)

８　危機管理の強化　【　安心・安全・楽しい学校の確立　】

○　学級担任の危機管理・・・アレルギー対応等生命と身体の安全，人権，いじめ・トラブル，個人情報，学力，保護者対応等さまざま。日頃から危機意識を持っておく。

○　配慮を要する家庭との連絡・連携をこまめに行う。

※本校には，非行事案は少ない反面、学校教育に無関心な保護者，子どもの躾が十分でない、

養育環境が適切でない家庭がある。それらの家庭とのこまめな連絡・連携が必要である。

○　学校内外での危険を除去し，安全性を高める。休み時間の過ごし方を観察する。
(毎月の安全点検，修繕，危険な遊び，交通安全指導)

○　避難訓練を通して，火事・地震・津波・不審者等発生時及び有事発生時の避難の仕方を学ばせ，危険を回避する意識を持たせる。(自分の身は自分で守る意識)

○　危機発生への報・連・相の徹底。初動を素早くし，組織で対応する

※特に生徒指導上の問題，けがの連絡には細心の注意をはらう。（けが連絡は、状況を判断し、保護者職場であっても迅速に行う。（程度・措置・対応医療機関））

その他の事案についての保護者連絡は，当日中に行う。(学校情報を知らせる)

保護者対応の基本は，１直接会話→２家庭訪問→３連絡帳

※保護者の応対で苦慮する場合は、管理職対応とする。

対応の「さしすせそ」

「 さ:最悪を想定し」「し:慎重に」「す:素早く」「せ:誠意をもって」「そ:組織で」対応する。